

# 文化

著作権問題を芸術学の立場から議論したシンポジウム  
(6月16日、京都市左京区・京都国立近代美術館)



い高生学生」はシヤルダン 技術として、銅版画は元

## 感覚と制度 異なる位置づけ

シンボでは、同連を、自身による似たような図  
構成す多象のメンバー 柄の複製画が多く実在  
三人が、絵画と音楽、映、で、エディション  
像の立場から問題提起。で価値の差異はほとん  
美学会の島本流、京都、ない。当時は一点モノ  
精華大 学 長  
は、著作権制  
度が確立され  
る以前、十八  
世紀のフランスの画家シ の意識が薄かった気がす  
ヤルダンの作受を節介る」と述べた。

(文化報道部 早田貴政)

芸術品の著作権問題を考えるシン  
ポジウム「藝術は誰のものか」(藝  
術学関連学会主催)のおかげで、  
京都市左京区の京都国立近代美術館で  
開かれた。インターネット  
技術の普及で芸術の著作権の扱いが問  
題視されるなか、法律や表紙の面だけ  
でなく、歴史的な経緯や文脈的な面か  
ら検証する迫り、議論からは、著作権  
の前提となる複製性の位置づけが時代  
や立場によって異なり、著作権制度に  
なじみにくい「芸術作品の性質が浮かん  
できた。

## 芸術の著作権問題を考える

# 潮流

kyoto

## コピーとオリジナル

### あいまいな関係性

「ワールドミュージック  
を事例にあげた。一九九  
〇年代、フランスやイ  
ツのアナリスがフロ  
モン諸島や台湾の伝統的  
音楽を現地録音して取り  
込んだ曲をヒットさせ  
たが、演奏には収益が  
還元されていないと指

「コピー」とオリジナル  
の関係性はあいまいで、  
一方では法律はつきりど  
いかに悪いかをけなく  
てはならない(増田聡  
大阪市立大専任講師)と  
いった感嘆が聞かれた。  
「現代社会が過剰になっ  
ている著作権は、本来、  
創作者が持つべきだ感  
ではなく、社会的枠組み  
が創作者の意圖を本意  
に留めてきた結果では  
ないか」と述べた。基子  
氏は「著作権は印刷や録  
音といった産業的な構造  
から生まれ、作者の感覚  
とは違つ」とした。

芸術は優れた作品の模  
倣の繰り返し」という見  
方がある。実際、歴史を  
ひもとくと、創作現場や  
作者には、模倣や共有  
があつた。だが、それ  
大衆の嗜好と情報発信が  
界の音楽文化の担取と  
可能になり、巨額の利益  
では第三世界の発展は難  
しい」と分析した。  
日本映画学会理事  
の兼正勝、電通通信大  
教授は、フランスの映画  
監督、ゴッタルドの映画を  
検証し、ほかの映画の場  
面が多く引用されてき  
ラフ、石版画は「工業  
的アート」とされ、原画  
と隔たりに生まれ、  
「この距離こそ、複製権の  
考え方が生る転機の一  
つになったのではない  
か」と問題提起した。  
オリジナルに対する感  
念では必ずしも「いと感  
念」(田田  
淳司)京都大教  
授「コピー」

が、つなぐ。だが、それ  
れば多量の良質なコ  
ピーが出現し、その場  
合に限り、巨額利益  
につながる現在では、著  
作権を整理していく  
ことは避けられない。兼  
正勝氏は別の立派な  
「総括」とは名和太  
郎・学術著作権協会理  
事。「以前個々の利用  
の立場から進められ、  
術著作権をめぐると、誰  
な関係が見えてきた。今  
後、著作権問題に対処  
していくには、作家や事業  
者や当事者の声を交え  
た、ときに幅広い議論が  
必要を感じた。

「コピー」は、他の  
出典者からは「コピー」は  
オリジナルに対する感  
念では必ずしも「いと感  
念」(田田  
淳司)京都大教  
授「コピー」

「コピー」は、他の  
出典者からは「コピー」は  
オリジナルに対する感  
念では必ずしも「いと感  
念」(田田  
淳司)京都大教  
授「コピー」

「コピー」は、他の  
出典者からは「コピー」は  
オリジナルに対する感  
念では必ずしも「いと感  
念」(田田  
淳司)京都大教  
授「コピー」